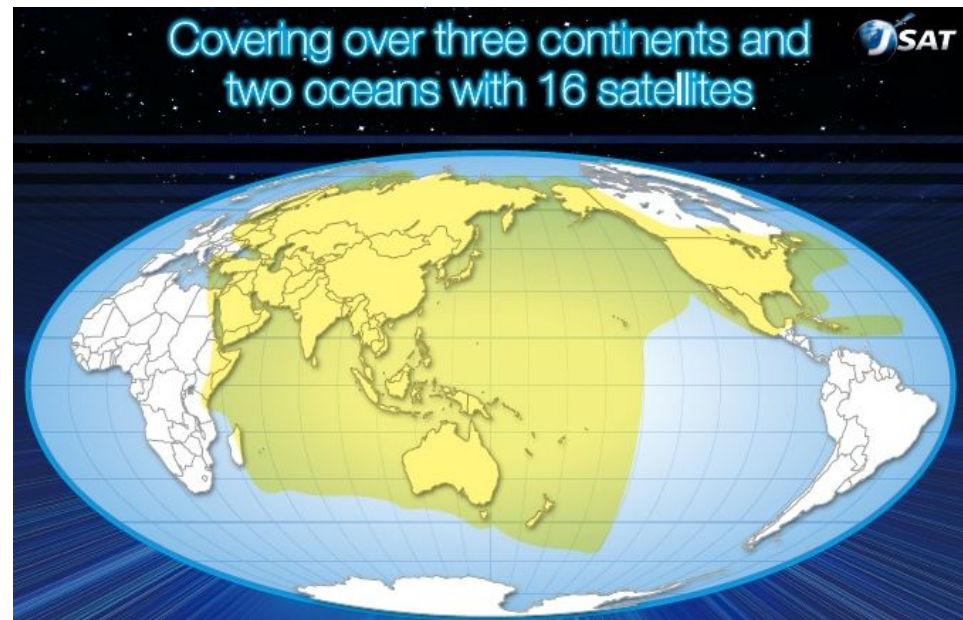


電波政策ビジョンへの期待



平成26年4月25日
スカパーJSAT株式会社

衛星事業の特徴

衛星事業の特徴

- 国際周波数調整(数年)
- 衛星製造(2~3年)
- 衛星寿命(15年超)
- の長期スパンで行う事業

スカパーJSATのサービス

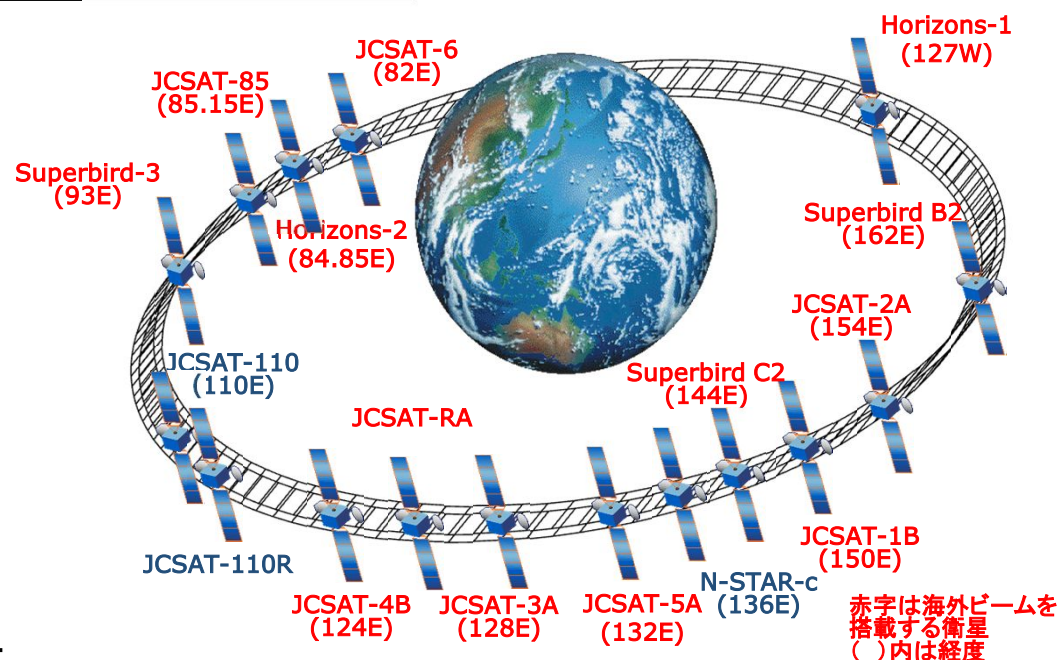
- 有料衛星放送、衛星双方向通信、移動体通信
- 国際通信、災害対策(BCP)
- 衛星数16機でアジア全域、北米、中東をカバー

衛星通信・放送の圧倒的特性

- 極めて広いサービスエリア(海上・空域を含めあまねくカバー)
- 地上災害(地震・水害・暴風・津波・火災・噴火など)の影響を一切受けない

アジアの衛星回線需要は拡大傾向

- 衛星放送:人口増と高画質化を背景に拡大中。
- 衛星通信:IMTの急速な普及と高速化を支える基地局間の通信回線としての需要が拡大中。



アジア太平洋地域の衛星中継器需要予測



Source: Northern Sky Research

衛星放送・通信の展望

2020年に向けて

放送:

現在衛星放送サービスを提供中の東経110,
124,128度の3軌道で早期に4K/8Kを推進

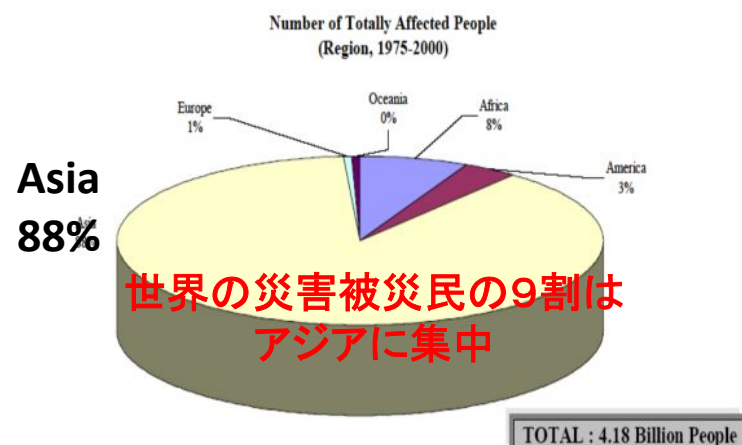
通信:

アジア視点で以下を推進:
防災BCP利用、安全保障、航空・海上通信拡大、2K/4K/8K素材伝送、IMT基地局間回線
今後の技術革新により移動体での衛星利用
がさらに急拡大する見込み。



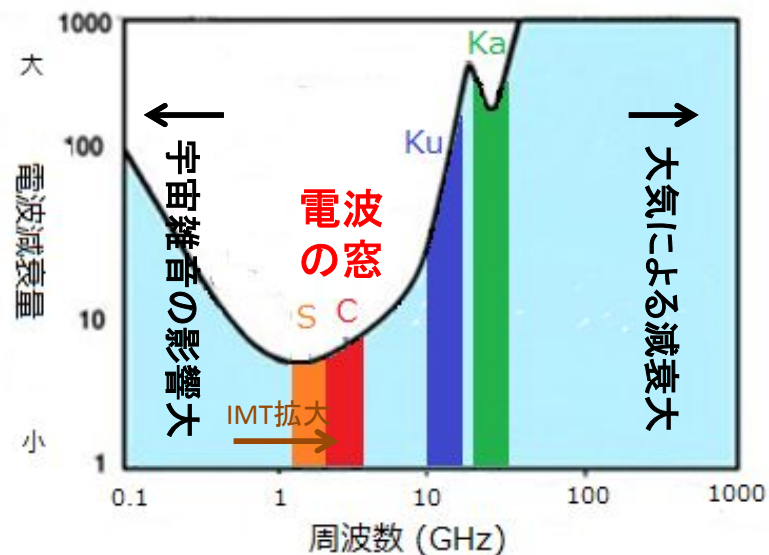
アジアのさらなる発展のツールとして

- 1) 日本企業と日本コンテンツのアジア展開、日本周辺的安全保障をあまねくサポート。
- 2) 世界の人口の半数以上集中する日本を含むアジアの成長を支える。
- 3) 世界の災害被災民の9割を占めるアジアでの「災害先進国」日本の貢献手段として。



電波政策への期待

- 衛星利用可能な周波数帯は限られる
 - 衛星回線は、伝播特性上、利用できる周波数が限定 (**電波の窓**): S帯、C帯、Ku帯、(Ka帯)
 - 地上用の周波数確保が中期的に継続し続けるのであれば、衛星には使い難いが地上通信には適用可能な高周波数帯(例えば51GHz帯)の利用開拓が急務
- 衛星は国際的な周波数割当との調和が必要
 - 海外を含め広域をカバーできる衛星では、エリア内での各国の周波数割当があまりに異なると効率的なサービスができない。
 - アジア太平洋で一般的に衛星で使われるC・Ku帯が、引き続き支障なく使えることが必要。
- 次世代 IMTとの周波数共用
 - 微弱電波を扱う衛星との共用は実際には困難。
 - 既に共用を検討中の帯域(3.4-3.6GHz)については、共存手段と費用負担について具体的な調整が必要
 - 将来的には衛星で使える有限の周波数帯は可能な限り共用対象としないことを期待
 - 衛星利用周波数の維持・確保のために衛星利用者・事業者の全世界的な連携が進んでいる。



当社C 帯カバレッジ
当社Ku 帯カバレッジ